

若者が自己実現できる場所の提供

～ サクラマス🍣プランを通して ～

関西大学社会安全学部 永田ゼミナール 指導教員：永田尚三

代表者：園田憲史

発表者：園田憲史、土井彩加、梅原直人、西富拓也

参加者：岡崎善輝、村山貴穂、上林真己、伊藤優樹

梗概

「若者活躍社会の拡大」というテーマのもと、関西大学永田ゼミナールが提案する事業は、「若者が自己実現できる場所の提供～サクラマス🍣プラン～」である。

現代社会には、人口流出・少子化に伴った林業・農業・地場企業の『後継者不足』問題や、簡単に周りの人と繋がることができる一方で、友人たちの発言や反応を過剰に意識してしまい、精神的に疲れてしまう『SNS 疲れ』に陥る若者層の増加問題などが生じている。さらに新城市は愛知県唯一の『消滅』可能性都市に指定されており、人口減少問題と同時に若者の活躍する場所も減少している。

そこで、関西大学永田ゼミナールは『再生・活躍』の合言葉を二本柱とし、循環させる『サクラマス🍣プラン』を提案する。本事業案では、新城市の豊かな自然を利用した「再生」と積極的な活躍を促す『若者議会』を用いた『活躍』を絡めた事業を展開する。本事業案では、若者の定義を 15 歳から 34 歳とし、対象者を夢や希望を持つ若者はもちろんのこと、自己実現を見出せなかった者まで幅広く設定し、若者が活躍できる場所を数多く提供したい。

本事業案を実施するにあたり、「再生プラン」では、短期・中期・長期の滞在期間で計画を分けることにした。そして「活躍プラン」では、若者議会の新しい門戸を開くことで、さらなる人財の発掘を行う。この事業案の提案に当たり、次章から諸問題の詳細に触れながら、具体的な解決策を説明する。

そして『サクラマス🍣プラン』を通し、新城市を「誰もが活躍できる場所」と全国で共通認識されるよう、より魅力ある地域に生まれ変わらせる。『消滅』可能性都市をデトックスし、『持続』可能性都市を目指す。

1章 問題の所在

1-1 人口減少の問題

事業案を提示するにあたり、まず、新城市が抱える問題から見ていきたい。新城市は、現在少子高齢化により、若者の人口割合が減少している。その進行具合は深刻で、将来消滅する可能性がある都市、『消滅可能性都市』にも指定されている。さらに、新城市は若者が全体の約 16.9%しか存在しておらず¹⁾、市が調査した「新城市の将来に関する中学生アンケート調査結果報告書」によると、市内に定住したいと思っている中学生は 38.2%しかいない。また、定住したくないと回答した人の 90.2%もの人が、新城市には職場をはじめとする魅力的な場所がないからだという理由を示している²⁾。この事実からも、感性が多様な若者にとって魅力的な働き場が少ないことが若者流出の大きな要因だといえる。そのため新城市の持つ魅力の底上げを行い、若者の新城市離れを改善することが解決の糸口になると考える。

1-2 地場企業の諸問題

中小企業では、会社の後継者および人手不足が死活問題である。全国の後継者不足による中小企業の廃業が急増することで、2025 年頃までに約 650 万人の雇用が喪失すると見込まれている。帝国データバンクによると、33 万 4117 社を対象に後継者の有無のアンケートを行った結果、全体の 66.5%の 22 万 2257 社が後継者不足に陥っていることが判明した³⁾。

これは、愛知県においても例外ではない。2017 年(1～12 月)の愛知県の「休廃業・解散」は 1238 件となっていた⁴⁾。新城市においても、35%の市内事業主が雇用を増やしたいと回答しており⁵⁾⁶⁾、人手不足の問題も数多く所在している。特に、小売業の後継者不足が深刻な問題となっている⁷⁾。このように地場企業が衰退することで、若者の活躍する場所が減ってしまうことが懸念される。そのため、後継者となり得る若者を獲得することが必要である。

1-3 農林業の諸問題

¹⁾ 男女別年齢別人口集計表(日本人)(平成 30 年 10 月)より割合算出

<http://www.city.shinshiro.lg.jp/index.cfm/7,3658,c,html/3658/20181004-194709.pdf>

²⁾ 新城市の将来に関する中学生アンケート調査結果報告書(p3)

<http://www.city.shinshiro.lg.jp/index.cfm/7,54863,c,html/54863/20170726-135157.pdf>

³⁾ 帝国データバンク「2017 年 後継者問題に関する企業の実態調査(2017 年 11 月 28 日)」

<https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/pdf/p171108.pdf>

⁴⁾ 帝国データバンク「2017 年の愛知県の『休廃業・解散』動向調査(2018 年 2 月 14 日)」

https://www.tdb.co.jp/report/watching/press/pdf/s180201_40.pdf

⁵⁾ [PPT]新城市の概要、若者議会の活動 :作成 愛知大学三遠南信地域連携研究センター

<https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=http%3A%2F%2Fwww.aichi-u.ac.jp%2Fsan-en%2Fwp-content%2Fuploads%2F2017%2F08%2Fhandout11.pptx>

⁶⁾ 新城市「市内事業所の雇用動向に関するアンケート(2015 年)」

⁷⁾ 新城市 産業振興部 商工政策課 へのヒアリング調査

前項では、地場企業の抱える後継者不足問題について説明した。その中でも、新城市では特に農林業が深刻な問題となっている。まず、林業の有する問題を述べる。現状として、新城森林組合の職員数並びに作業班員数は減少傾向にあり、特に作業班員数の減少は著しいもので、2006年～2016年の10年間で30人から13人へと半数以上まで減少している⁸⁾⁹⁾。

さらに作業員の高齢化が顕著であり、次世代を担う後継者の育成が求められている。また、後継者の問題以外にも重要な課題がある。それは人手不足による管理の行き届かない手入れ不足の森林や放置されたままの森林が増加していることである¹⁰⁾。適切な森林管理が行われず、放置されたままの森林が増加すると、本来の森林が有する公益的機能を十分に発揮できない。そのため、新城市の公益的機能を十分に発揮するためには適切に森林を管理することが必要不可欠となっている。

次に、農業の有する問題について述べる。新城市ではNPO団体による活動や市の政策を通し、農業従事者の育成に力を入れているが、解決の糸口に繋がらないのが現状である。さらに、営農意欲の低下や農業に対する理解不足が指摘されている¹¹⁾。全国に規模を広げ確認すると、2009年における農業人口は289万人であったが、農業人口の6割が65歳以上であり、35歳未満の農業人口は5%と留まっており、全国で農業を継ぐ若者が不足している¹²⁾。

このような諸問題を解決するために、今後の農林業界を担う若者に対して、営農意欲の向上や農林業に対する理解を深める新たな取り組みを行わなければならない。

2章 永田ゼミナールが考える『若者活躍社会』

2-1 若者の定義

今回提案するプランの対象年齢について、新城市若者条例第2条第2項に記載されている定義ではおおむね13歳から29歳までを若者としている¹³⁾が、厚生労働省における若年者雇用の定義より、青年層に相当する15歳から34歳までを若者とする。対象の幅を拡大することで、何かしらの要因で学校に通えなくなってしまった不登校者はもちろんのこと

⁸⁾ 「新城市森づくり基本計画(平成22年8月)」(p2-6)

<http://www.city.shinshiro.lg.jp/index.cfm/7,19643,c,html/19643/20100901-131326.pdf>

⁹⁾ 「愛知県林業統計書(平成28年)」(p54)

https://www.pref.aichi.jp/uploaded/life/182980_397306_misc.pdf

¹⁰⁾ 「平成29年新城市森づくり基本計画進捗状況報告書」

<http://www.city.shinshiro.lg.jp/index.cfm/7,19643,c,html/19643/20180124-164205.pdf>

¹¹⁾ 「第2次 新城市農業基本計画」(p9)

<http://www.city.shinshiro.lg.jp/index.cfm/7,28077,c,html/28077/20170407-173604.pdf>

¹²⁾ 「農業の高齢化問題と後継者不足の現状について | 農家・農業求人サイト【あぐりナビ】」

<https://www.agri-navi.com/cat19/cat17/504>

¹³⁾ 新城市若者条例

http://www1.g-reiki.net/shinshiro/reiki_honbun/r366RG00000730.html#e000000019

だが、一度企業に就職したものの仕事内容や労働条件が合わないといった理由で離職した、社会に疲弊した労働者も対象とできる。そして、一人でも多くの若者を『サクラマスプラン』に組み込む。

2-2 若者活躍社会の定義

事業案を提案する前に、永田ゼミナールが考案する『若者活躍社会』の定義について説明する。私たちは『若者活躍社会』を『若者が自己実現できる場所』と定義する。現状として、若者の活躍にとって「自己実現」は、最も重要である。マズロー欲求5段階説では、自己実現は一番高次の欲求に位置づけられている。また現代社会に沿って述べると、「自分のしたいこと＝社会貢献」となっており、それが自己視点から捉えられているのであれば、それは『自己実現』状態¹⁴⁾である。すなわち、自己実現は個人と社会の両方にとって最大限の利益であるといえる。近年、SNSの発達や価値観の多様化に伴い、現在の若者には様々な活躍の場所が提供される。しかし同時に、若者活躍の場所の提供は不十分なことも判明している。特に郊外で活躍する場所の不足は深刻であり、自己実現を求め、都心へ流出してしまう若者が多い傾向がある¹⁵⁾。

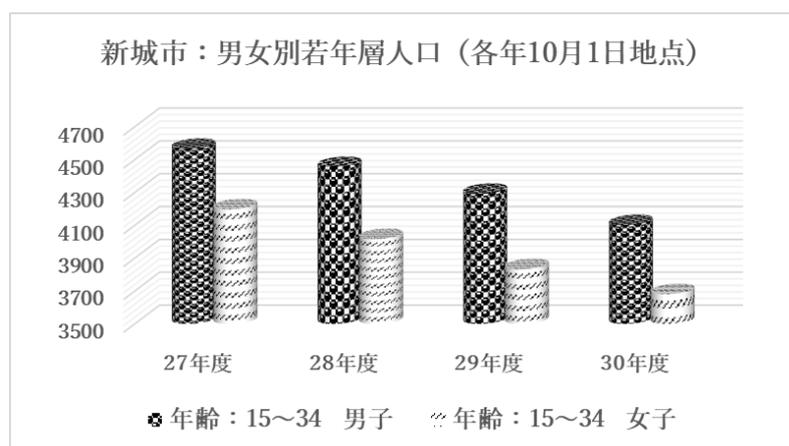


図1 新城市の若者人口男女別推移

若者の人口流出を食い止めるべく、新城市が持つ魅力を活かして若者の将来の意識変化を促した事例がある。それは、『若者議会』である。ある若者が、開催4年目にあたる若者議会を通し、議会中で行われる政策提案において、まちづくりについての事案に関わった。そこで、具体的な将来の活路を見出せていなかった若者が、自分が活躍できる場所を見つけ、

¹⁴⁾ 自己実現とは？その正しい意味と達成方法について解説します
<https://reeced.jp/self-realization/>

¹⁵⁾ 図1「男女別年齢別人口集計表(日本人) - 新城市」の毎年10月男女数を元に永田ゼミナール作成
<http://www.city.shinshiro.lg.jp/index.cfm/7,3658,143,651,html>

政治等のまちづくりを学ぶことができる大学に進学した¹⁶⁾。現在は自己実現に向けて取り組んでいる。

このような成功事例から、どのような若者でも自分らしさを引き出し、活躍するための自己実現の場所を提供することが「若者活躍社会」の拡大に繋がるといえる。

以上が私たちの考える「若者活躍社会」の定義である。この定義において、すべての若者が新しい考え方を養う機会を提供することも試案したい。

2-3 『再生』の対象となる 若者×デジタルデトックス

2-3-1(1) 対象者となる若者の諸問題

次に、本事業で、『再生』、『活躍』の対象となる若手を取り巻く、諸問題について見ていきたい。近年、「ひきこもり」や「不登校者」、「中途退職者」といった児童・生徒、自己実現を見出せなかった若者の存在が全国的に大きな社会問題となっている。2018年度の小・中学校における不登校児童生徒数は約13万人¹⁷⁾である。2016年度「児童生徒の問題行動・不登校生徒指導上の諸課題に関する調査」によると、この数値も年々増加傾向にある。同様に新城市においても2014年度の不登校者は小学生が15人で全国の1.61倍、中学生では45人で全国の1.16倍とどちらも全国の割合を上回る数値となっている。また「不登校者」の復帰を促す場所の提供や、効果が十分なのかという疑問の声も挙がっている。この問題は、現代の人口減少を背景とした解決すべき重要な問題である。解決しない状態が続くと、多数の人材が社会復帰できず、生涯を終えてしまう結果につながる。これは、社会にとって大きな損失である。

2-3-1(2) 問題の解決策

では、このような問題をどのように解決するのが良いのであろうか。解決に向けた示唆を与えるのが、沖縄県の「久高島」で不登校者がデジタルデトックスによって社会復帰した事例である。¹⁸⁾¹⁹⁾ デジタルデトックスとは「一定期間スマートフォンやパソコンなどのデジタルデバイスとの距離を置くことでストレスを軽減し、現実世界でのコミュニケーションや、自然とのつながりにフォーカスする取り組み²⁰⁾」である。一例として、ノンフィクション書籍『再生の島(著:奥野 修司)』では、不登校生活を送っていた中学生がゲーム無し・携帯禁止・週末は畑で農作業という、いわゆるデジタルデトックスの環境で久高島での生活

¹⁶⁾ 新城市職員への電話ヒアリング調査より(2018年10月10日)

¹⁷⁾ 「平成28年度 児童生徒の問題行動・不登校生徒指導上の諸課題に関する調査」

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/30/02/_icsFiles/afieldfile/2018/02/23/1401595_002_1.pdf

¹⁸⁾ 奥野 修司(2015)『再生の島』

¹⁹⁾ 『再生の島』離島の奇跡に学ぶ - HONZ

<http://honz.jp/articles/-/41589>

²⁰⁾ デジタルデトックスとは? | DIGITAL DETOX JAPAN

<https://digitaldetox.jp/digitaldetox/>

を通し、社会復帰を果たしている。彼らは、部活動で全国大会に出場するといった目覚ましい活躍を見せている。このようにデジタルデトックスは不登校者の社会復帰に一役買っている。

また、デジタルデトックスを利用して、日常生活の毒素を取り除く体験を提供する観光業「夏のガキ大将の森キャンプ²¹⁾」もある。このような取り組みを参考に、不登校などで人間関係の構築が困難になった若者の社会復帰が可能となる。そして、デジタルデトックスには疲労回復やストレス軽減という効果もあり、自己実現が見出せず中途退職してしまった人の疲弊した心を休ませ、立ち直らせることができる。以上の取り組みから、デジタルデトックスは「不登校者」「ひきこもり」「中途退職者」などの社会問題を解決するためのプランとして可能であると考えられる。中途退職者や不登校者になった若者の中には、自己実現の場所がないがために、現実を受け入れることが難しくなってしまうことが多い。解決するためには、各個人が持つ能力を最大限に引き出し、活躍することで「自己実現出来る場所の提供」の流れの作成が重要である。

地域にとって志の高い市民を誘致することは重要であるが、同様に社会復帰を望む者の手助けをし、地域にとっての貴重な人財へと再生することも、地域社会の重要な使命である。また、このような自己実現が見出せなかった新城市内外の若者層は、新城市にとって若者獲得のための宝の山といえる。デジタルデトックスを用いた事業案を私たちは第3章にて提案したい。

2-4 『活躍』の場所の提供 × 若者議会

第1章1節で若者が魅力と考える活躍の場所が少ないことを述べた。また、第1章2節においても、新城市の後継者不足の数値を示したように、農林業での『活躍』の場所が少ないことが見受けられた。つまり、農林業への理解を深め興味を持たせる取り組みを市内の若者層に進めると同時に、若者の自己実現のために、活躍の場所の提供が不可欠である。若者にやる気を持たせることや、やる気のある若者層のスキルアップには様々な案があり、効果が見えた例も新城市に存在する。

新城市では、若者の柔軟な発想を政策に活かすことに力を入れている。代表的な例としては、主に市内の高校生が主体となって開催する『若者議会²²⁾』が挙げられる。若者議会とは「若者をとりまくさまざまな問題を考え、話し合うとともに、若者の力を活かすまちづくり

²¹⁾ 夏のガキ大将の森キャンプ … 自然の中での30泊31日にわたるキャンプ体験を通して、様々な気づきを得られるイベント。毎日繰り返す生活の中で、仲間との遊びや採め事、バイクやナイフなどの道具を使うこと、様々な挑戦を重ね、「からだ」と「心」を時には優しく、時には厳しくきかせる。仲間と過ごす1ヶ月で、普段の生活では体験できない達成感と自信を得ることができる。期間は短期間から長期間のものがある。

具体事例：「夏のガキ大将の森キャンプ～低学年一週間編～」レポート | ハローウッズの森だよりブログ

http://www.twining.jp/hellowoods/blog/entry_530.html

²²⁾ 「若者議会 - 新城市」

<http://www.city.shinshiro.lg.jp/index.cfm/7,0,194,925.html>

政策を検討し市長に答申する」という趣旨の基に作られた議会である。対象年齢は16歳から29歳が対象となり、議会の役員は若者層が中心となって活動が行われている。

若者議会の体制は、本格的な事業試案を意識したものとなっている。そして、その事業は新城市に関わるものであり、市の未来を見据えた内容である。若者議会では、初めに事業試案のノウハウをメンター市民²³⁾から学ぶ。次に事業の大まかな目的・目標・手段を作成し、それらを検討する。検討が終わり次第、事業中間発表を行い、事業を練り直す。その後、市長への答申を行い、予算を検討する。最終的には、企業間コラボなどの具体的な事業として確立させ、来年の事業につなげる。これが現在の若者議会の体制である。

若者議会では、若者の政治意欲を刺激するとともに、若者目線での意見が事業に反映される利点が存在する。予算の面でも十分に考慮されており、若者の事業へ対する意見反映も高い。このような取り組みは、若者層にやりがいを与え、自己実現を可能とする。従来の若者議会の取り組みをより強化することで、新城市の若者層の流失を防ぐとともに、外部からの新しい若者層の獲得が可能となる。そのような『活躍プラン』を第3章5節にて提案したい。

3章 『サクラマス^魚プラン』

3-1 プラン名の由来

私たち関西大学永田ゼミナールは、『再生』『活躍』を二本柱とした『サクラマス^魚プラン』を提案したい。『サクラマス^魚プラン』とは、魚のヤマメをモチーフにした計画である。「ヤマメ」は川で生まれ川で育つ。その中には、海で育ち、川に帰ってくるものがある。海で育った種類は本来の「ヤマメ」ではなく、ヤマメよりも体の大きな「サクラマス」と呼ばれる。川で生まれ、海で育ち、再び川に戻ってくる。事業案で置き換えると、川は『再生プラン』、海は『活躍プラン』である。「ヤマメ」は自己実現を見出せなかった若者層を想定し、「サクラマス」は自己実現を果たし、社会で活躍する若者層を指す。私たちのプランでは、ヤマメに倣い、二つのプランを循環させることで、若者が活躍できる社会の拡大に寄与するシステムを構築する。

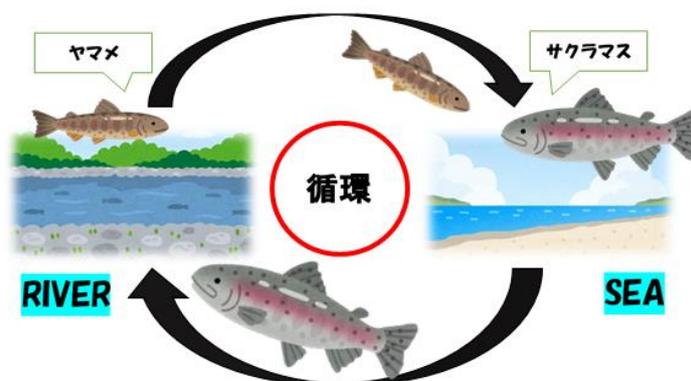


図2 ヤマメ⇒サクラマスの成長過程

²³⁾ メンター市民 … 議会に招く専門家および若者議会 OB を指す。

3-2 政策の全体概要

私たちが提案する「サクラマス^④プラン」の全体概要を述べる。下図のように『再生』『活躍』を二本柱とし、若者活躍社会の拡大を見込んだ政策となっている。上図の『再生』と『活躍』にどのような関連性があり、循環していくのかを説明する。

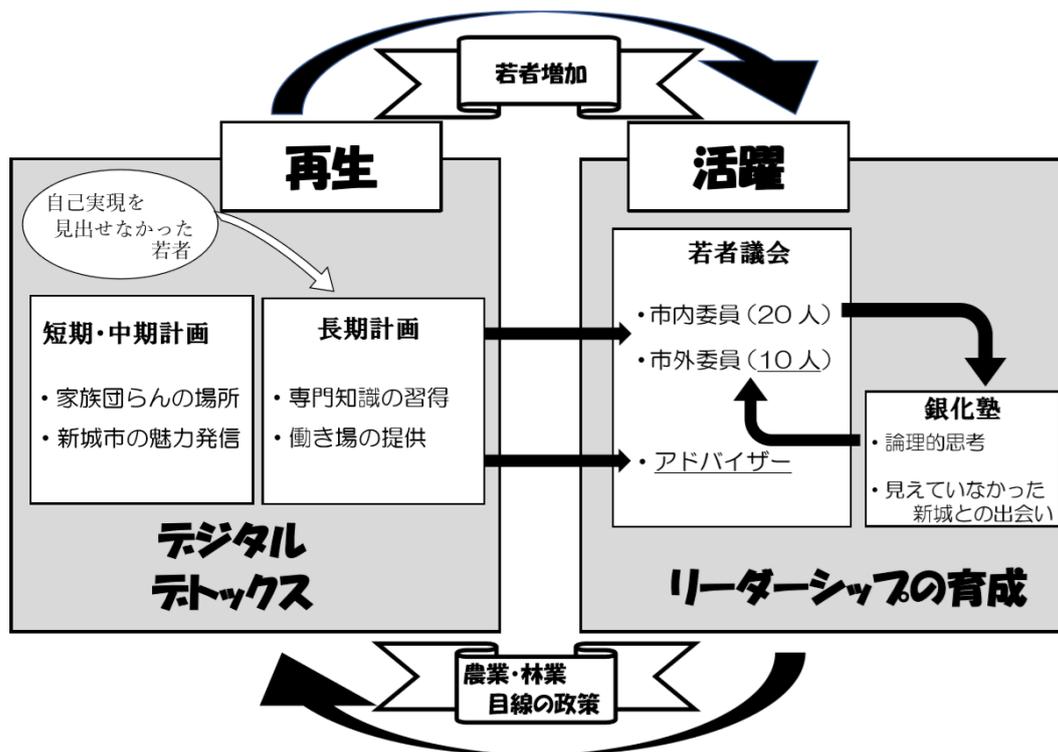


図3 サクラマス^④プラン全体図 永田ゼミナール作成

第一の柱である「再生プラン」では、滞在期間に合わせて短期・中期・長期の3つのコースに分かれている。再生プラン全体の目的としては、参加者に新都市の魅力や農林業を知ってもらい、自己実現を見出せなかった若者層に対しては、農林業のノウハウを伝え、社会復帰の第一歩の支援を行うことである。

第二の柱である「活躍プラン」では、「再生プラン」を経た若者層が「若者議会」に参加し、政策提案に携わることで活躍の幅を広げる。また、さらなる活躍を目指す若者層に対しては、『銀化（ぎんけ）塾』を提案する。「銀化」とは、ヤマメがサクラマスに成長する過程で体が銀色になる現象を指す。この現象に倣い、若者層にとってさらなる活躍を行える場所になるという思いを込めて、『銀化塾』と名付けた。（なお、銀化塾を用いたプランの詳細については、第3章5節2項にて後述する。）このように「再生プラン」によって成長した人材を若者議会に送り出し、新都市の市民がより住みやすく豊かに暮らしていけるような政策提案を行っていく。それがさらなる総合的な市への発展に繋がり、『再生』から『活躍』への橋渡しが可能な状態となる。

本事業案では、この『再生』『活躍』プランの二本柱を循環させることで、若者が自己実現を見いだせる魅力ある社会を創造する。次節から、各軸の事業についての詳細について説明したい。

3-3 再生プランでの共通事項

3-3-1(1) 再生プランに入る前に

この節では、再生プランのコンテンツの活動内容と単語について説明する。再生プランは前述の通り、自己実現が見出せずにいる若者層に、社会復帰の第一歩を踏み出す支援を行うことを主目的としている。併せて、本プランにより期待できるのが観光客をはじめとした、外部からの来訪者の増加である。

また、本計画の第2章3節2項にも記載されているように、デジタルデトックスで生じた余剰時間を有効活用できるコンテンツを提供する。

それを踏まえ、第3章4節1項では、デジタルデトックスを用いた観光および不登校者の再生のプランの内容を述べる。

3-3-1(2) 観光ツアーおよび観光場所について

デジタルデトックスを用いた観光は、すでにそのやり方がある程度確立されている。それはデジタルデトックスの環境下で、自然的要素と人工物的要素を含むツアーを行うというものである。ツアーの参加者は、デジタル機器を使わずに観光をする。さらに温泉や森・川といった自然的要素が含まれている地域を観光場所とし、徹底してデトックスを行う。そして人工物的要素として、ヨガや仏閣での座禅を取り入れたコースがある。

自然を盛り込んだ各コースの条件も特異なものでなく、確立する条件のハードルは厳しいものではない。新城市の自然的要素としては、湯谷温泉・タケノコ狩り・アウトドアスポーツが行える新城市総合公園が挙げられる。また、仏閣では仙人伝説のある鳳来寺がデジタルデトックスの観光場所として魅力的である。人工物的要素として座禅や断食による身体のデトックスを取り入れたコース設定が可能である。このような観光ツアーを通し、市外からの参加者に新城市の魅力を深く知ってもらい、リピーターになってもらいたいという狙いがある。

3-3-1(3) DIYについて

再生プランでは、短期間で手軽に行うことができる DIY を組み込む。DIY とは「Do It Yourself」の略で、既製品を購入するのではなく、すべてを自分自身の手で行うことを意味している。一般的に、棚・テーブルなどの家具を創作することが DIY のイメージとして多い。この DIY のメリットは、主に二つある。一つ目は、自分で1から設計を行うことができるため、完成までの過程を自分自身で楽しむことができる。そして二つ目は、自分の好き

な形・サイズにモノを仕上げることができるため、既製品にはないオリジナリティを出せることである。

このプランでは、DIY における材料として竹を使用する。その理由として以下のことが挙げられる。まず竹は専門家の指揮監督の下で、初心者でも切り倒すことが可能である。そして他の木材と比べると費用がかからず、加工がたやすいこと、耐久性があること、比重が軽いこと、といった利点がある。これらの理由から、竹は DIY に取り組みやすい材木であり、私たちのプランでは竹を使用する。加えて竹は繁殖力が強く、資源の枯渇に繋がりにくい。廃棄後も土に戻る性質があり、資源として利用するのであれば非常に有効でかつエコロジカルなものといえる。再生プランにおいては、前述した DIY コンテンツで竹を伐採から箸などの作品を作るまでの工程を自身で行うことで、農林業にも興味関心を喚起させる狙いがある。

3-4 再生プラン事業内容

3-4-1 『再生』短期計画

短期計画の期間は1日~1週間とし、市内外のファミリー層を対象とする。この短期計画の目的は、気軽に農林業の体験をしてもらうことによって参加者にこれらの職業に関しての興味関心を抱いてもらうことである。前述のとおり、新城市では農林業の後継者不足が問題となっている。そこで、将来の担い手となる候補者に気軽に農林業に関する体験をしてもらうことで、興味、関心を抱いてもらう必要がある。

農林業に関心を持ってもらうために、竹を利用したDIYを行う。竹は様々なものを制作することが可能である。竹で創作した家具は、他の木材と比較して和風な雰囲気のものに仕上がるため、若い女性の関心を惹きやすい。使用する竹は、既に新城市でタケノコ狩りを行っている「新城市総合公園」で伐採する。公園にて竹の伐採や前述したDIYコンテンツを体験し、竹の根元の若芽である「タケノコ狩り」も行う。タケノコ狩りも年齢を問わず体験できるものとなっているため、一定数の参加者数見が込まれる。さらにDIYの応用として、スタードーム²⁴⁾を制作することも可能である。スタードームは、制作時に自由な大きさに変えることができる利点があり、室内のインテリアとしても活用できる。そして、新城市が作ることを奨励している「ハウレンソウ」、「トマト」、「イチゴ」の収穫体験も行う。

また短期計画では、コンテンツを通して家族の会話が増え、さらに体を動かすことで心も体もリフレッシュされた状態になる。そして短期的滞在でも、新城市の美しい自然を堪能できるコースを盛り込み、十分に新城市の魅力を知ってもらい、リピートしてもらえらる工夫も凝らす。



図4 スタードーム

²⁴⁾ スタードーム…竹などの身近な素材を使って作る半球形のドームである。図4が実物の写真。

3-4-(2) 『再生』 中期計画

中期計画の期間は1ヵ月以上とする。この計画では、長期休暇の子供たちと社会人の研修参加者を対象者とする。この中期計画の目的は、新城市の歴史を反映したプランを体験し、参加者に新城市の魅力を感じてもらえることである。新城市は大正3年(1575年)武田信玄の子・武田勝頼が率いる武田軍と織田・徳川連合軍が長篠の戦いを行った歴史的にも非常に有名な地域である。そこで、この地域の特色を利用した新城市ならではのコンテンツを提供する。それは、短期計画のコンテンツに加え戦国時代の食事を再現し、実際に当時の生活を体験してもらうことである。一例として、名古屋の特産品を生かした「味噌玉」を挙げる。味噌玉とは戦中、焼きみそを球状にしてお湯で溶けば即席の味噌汁が完成するものである。ここに新城市の特産品である「ホウレンソウ」を加え、他の地域にはない、新城市ならではの味噌玉を作ることができる。また、現代のごはんとは異なった「蒸し飯」作りも同時に体験できるようにする。そして、新城市の名産で県内1位の生産量を誇る「梅干し」と共に食す。この料理体験を通じて、新城市がたどってきた食の歴史をリアルタイムで体験でき、魅力を実感できる。このように、観光客に新城市の歴史や特産品、自然に触れてもらうことで新城市の魅力を最大限に伝えることができる。

3-4-(3) 『再生』 長期計画

長期計画の対象者は、自己実現を見出せなかった若者層とし、対象期間は、若者層が社会復帰に向けた第一歩を踏み出すまでとする。この計画の目的は、対象者に自己実現を見出し、自己肯定感・自尊心を成長させ、社会に復帰する意思を抱いてもらうことである。

長期計画の内容は、対象者を完全にデジタル機器と隔離し、農林業に関する専門知識の勉強と実践演習を行うというものである。この計画を通し、①「おのずとコミュニケーション形成ができるようになる」②「役割分担を通し、責任の大切さを実感する」③「農林業従事者が増える」といった三つの効果が得られる。

例えば、農業には種まき・水やり・収穫といった作業工程がある。計画の中で行う実践演習では、これらの作業を体験してもらう。それぞれの作業過程で役割分担をし、対象者一人ひとりに責務を与える。作業においてはコミュニケーションをとることが必須となり、①と②の効果が最終的に得られる見込みである。また、専門知識を得た上で実践も踏まえるため、自分に適している職だと感じる若者も出てくると考えられる。将来的に農林業に従事したい若者が増えるという③の効果が見込まれ、相乗効果として、新城市が抱える「農林業の後継者不足問題」に貢献できる。この計画の裏付けとして、第2章3節2項で述べた、小さな成功経験の積み重ねにより、不登校者らが社会復帰を果たしたという事例がある。

長期計画の最終的な完成形としては、計画に参加した若者層が、新城市に愛着を持ち、定住したいと思うことが当たり前となるようにしたい。

3-4-(4) 『再生プラン』 の予算

本項では、期間別における試算について記述していく。まずは、短期計画における試算

を示す。現在、新城市では「ホウレンソウ」、「トマト」、「イチゴ」を作る事を奨励している。今回は一例としてイチゴ狩りを挙げる。イチゴの買い取り価格を1000円/kg²⁵⁾、入場者に1時間の食べ放題を行い、平均で1kgのいちごを消費すると仮定する。そして、お土産用に店頭販売を行い、1500円程度の入場料でいちご狩りを企画する。これにより、普段の買い取り時より500円程の利益が得られるので、愛知県の一般的なイチゴ狩りと大きく変わらない値段となる。さらに、農家が普通に売るよりも利益が出るように値段を設定するので、持続可能なプラン内容となっている。

次に、中期計画における試算を示す。コンテンツに要する1日当たりの試算は以下のとおりである。食費が2400円、宿泊場は「やまびこの丘」を利用すると仮定し1640円、イベント費を3000円とすると合計7040円となる。そして、この企画を30日実施すると約22万円となる。実際の参加費を約25万と設定し、毎年20人程の集客を期待すると、年間約60万円の利益が見込める。この参加費を高く感じる人もいるかもしれないが、第2章3節2項で述べた事例がある。「ツインリンクもてぎ ハローウッズ」が毎年主催しているキャンプで「夏のガキ大将の森 30泊31日キャンプ」というものがある。このキャンプは約30万円の参加費を要するが、21人の定員を超える多数の応募があり、毎年キャンセル待ちが続出している。そのため、十分な集客効果が見込めると考えられる。

最後に長期計画における試算を示す。今回は、新城市で奨励されている「ホウレンソウ」を30aの農地を利用し、9人で栽培することを例に挙げる。そして、費用に関しては新城市のホームページに掲載されている「新規就農者募集²⁶⁾」を参考にし、農地は新城の農家や部会²⁷⁾から借り入れることを想定する。

3-4-(5) 主な担当部局

最後に、再生プランの主な担当部局について説明する。本プランの担当部局は、産業振興部の農業課・森林課・観光課²⁸⁾を想定している。これらの部局が連携して行っていくことを推進したい。農業課は、人と農地の問題を解決するためのプランを作成し、地域農業の将来について思案している。森林課は、森林資源の活用方法や市民が参加できる森づくりを推進した事業を展開している。さらに、農林業の担い手不足を改善するための人材育成事業にも力を入れている。観光課は、新城市の魅力を活かした祭りやイベントを計画し開催している。このようにそれぞれの部局のプロフェッショナルの力を借り、整合性をと

²⁵⁾ 新城市 [いちご] 経営イメージ【単身経営】

<http://www.city.shinshiro.lg.jp/index.cfm/9,48321,c,html/48321/20180725-100143.pdf>

²⁶⁾ 新規就農者を募集します - 新城市

<http://www.city.shinshiro.lg.jp/index.cfm/9,48321,126,605,html>

²⁷⁾ 部会 …自主的かつ主体性をもった組織で、各JAにとっては生産量の調整や事業方針等を各部会員(農家)に対して伝える重要なハブ組織である。

²⁸⁾ 組織からさがす-新城市

<http://www.city.shinshiro.lg.jp/sections/>

りながら連携し再生プランを実施していきたい。

3-5 活躍プラン事業内容

3-5-1 『活躍』 若者議会プラン

次に、活躍プランの事業内容について説明したい。活躍プランでは、新城市の既存の事業である「若者議会」の機能拡大を主とした、若者へのやりがいの場所の提供について話を進めていきたい。

現在、若者議会の市外委員枠は設置されているものの、全体に占める割合はごく少数である。その枠を増やすことで、市外からの多様な意見を取り入れることができる。また、政治家を目指す市外の人たちを議会に招くことで、以前にも増して活発な議論が生じ、より魅力ある新城市を創ることに繋がる。

続いて、私たちが考える新たな若者議会の制度を提案する。「再生プラン」により農林業に従事した若者を議会に取り入れる。単に社会復帰を促すだけでなく、社会に送り出した後にも活躍の場所を提供し、若者議会の議員として加わり、運営・牽引していく。この一連の流れで、新たな自己実現の場所の提供や自己成長を促すことができる。再生プランを経験した若者は社会復帰の第一歩を踏み出す。そして、復帰した若者の考えを取り入れ、現在活躍している若者とこれから活躍する若者の両者が政策試案に携わることで、新城市の未来を創る担い手になると考えられる。そのため、再生プラン経験者の中から若者議会委員として選出することも提案する。そうすることで既存の若者議会のメンター市民と同様、市外の若者に活躍の場所を与えることができ、自己実現や自己成長にもつながる。さらに、「再生プラン」経験者は農林業従事者であることから新城市の農林業の現状を知っている。このように再生プラン経験者は、新城市の農林業に関する政策を創り出し、現状の改善をすることができる。以上より、若者議会に変化を加えることで、より効果的な若者活躍の場となると同時に、新城市における農林業の現状の問題打破を実現する。

3-5-2 『活躍』 ^{ぎんけ}銀化塾

現在の若者議会は、活発的に活動しており、個々の自己成長の志も高い。同様に、市外委員やメンター市民を含め、周りの協力も手厚い。また、地域への貢献度も高いと考えられる。しかし、市内での若者議会の認知度は未だ低く、第3章3節で述べたように若者議会の知名度は3割以下である。つまり、市外委員の枠を増やしても市外委員に入ることを望む人が集まらない懸念がある。これは由々しき事態であり、早急に解決策を講じる必要がある。そこで、私たちは『銀化塾』を提案したい。

若者議会で新城市をより良くするためには政治・経済・財政などの幅広い知見が必要である。そのために、必要なノウハウを学ぶ『銀化塾』を設ける。『銀化塾』では、積極的な学ぶ姿勢も養うために、ディベートなどを組み込んだ参加型講義を中心に行う。従来の講義型

授業では受動的な姿勢になる傾向がある。また、受け身の学びでは、わずかな時間での知識の定着は見込めない。一方、「若者議会」に所属している人たちは主体的に活動している。そこで、『銀化塾』でもこのような姿勢を見習い、主体性のある人材の能力を十二分に発揮させたい。講義は、年間12回を予定しているが、常に新鮮な学びを提供するために、講師を講義により変更する。行政の研究者、更に新城市の企業の方を登壇させることで、参加者に業界や研究といった分野に視野を広げる機会を与えたい。

3-5-(3) 『活躍』プランの予算

本プランの経費計算は、新城市で活躍プランを導入した場合を想定する。まずは、若者議会の予算を示す。若者議会の予算は、今まで通り1000万円とする。なぜなら、財源は有限で、その中で創意工夫が凝らされた案こそが良案といえるからである。また、議会参加者の志は高く、今後『銀化塾』に募る人も限られた予算の中で良案を出すだけの能力があると考えられるからである。また、市外の議員人数を多くすることで、貴重な財源を市外の人に使用する可能性が高くなる。だからこそ、現在、市内にいる若者議員で生み出された案が本当に市内・市外の両者にとって最大限の利益が出るかを精査する姿勢になる。両者が政策案について議論し合うことで、今まで以上に案が磨きぬかれる。そのため、今まで通り予算は1000万円としておく。銀化塾の予算としては、前述した期間で設定する。1回の講師を呼ぶ値段を4万円とすると、12回×4万円=48万円となり、さらに1回の会場費を5700円³¹⁾とすると、12回×5700円=6万8400円となる。よって、必要経費の合計は約55万円となる。加えて銀化塾の参加費用は1人当たり2万円とし、2万円×40人=80万円となる見込みである。したがって、『銀化塾』を開塾するにあたって約25万円の利益を見込んでいる。

3-5-(4) 主な担当部局

最後に活躍プランの主な担当部局について説明する。企画部まちづくり推進課を想定している。この課では若者議会をはじめとする、若者が活躍できるまち実現事業を展開している。また、地域の内情を把握している企画部企画政策課にも力を借り、活躍プランを実施したい。

4章 おわりに

今回、永田ゼミナールでは「サクラマス[🍣]プラン」を提案した。本事業案のようなデジタルデトックスを行うことは、他の地域でも応用が可能である。さらに日本では四季折々の

³¹⁾ 施設使用料 | 新城市文化広場

<https://www.shinshiro-bunka.jp/guide/price/>

自然を楽しめることから、通年で行える事業案でもある。同時に、地域の歴史的背景や地理の特徴で差別化を図り、デジタルデトックスを活用した観光業の発展にもつなげていきたい。

各地域によって抱える課題・実情は異なるため、一概には言えないが、本事業案の活躍プラン内のような若者層の意見を政策に取り入れられるような機会・体制を設けることで、地域特有のプランとして推進していくことができるのではないかと考える。

本事業案を最大限に活用することで、若者活躍社会の拡大を推進していきたい。そして、「活躍の場所」の拡大と、新城市は「誰もが活躍できる場所」という共通認識を市内外の人が実感できることを期待する。最終的には『消滅』可能性都市をデトックスし、『持続』可能性都市の姿を目指していきたい。

【参考文献】 サイトの最終確認はいずれも 2018 年 10 月 18 日

新城市ホームページ

<http://www.city.shinshiro.lg.jp/>

小さなサクラマス、戻りヤマメの生態

<http://www.geocities.co.jp/Outdoors-Mountain/2114/seitai.html>

ヤマメとサクラマスの生態と分布

<https://enoha-tei.com/yamame-seitai/>

DIGITAL DETOX JAPAN

<https://digitaldetox.jp/>

新城若者議会

<http://wakamono-gikai.jp/>

永田尚三 桑原英明 (2008)「政策ディベート入門」 創開出版社

税所篤快 (2015)「若者が社会を動かすために」 ベスト新書